

「啓発型健診」普及へ

青銀、効果検証に協力

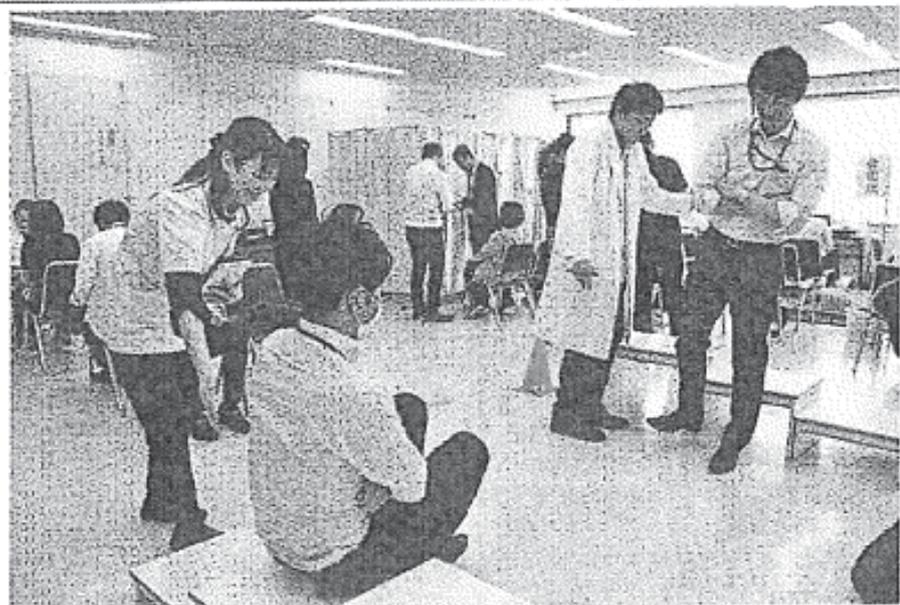
青森銀行（成田晋頭取）は16、18日、行員を対象に、弘前大学が

普及を進める新たな健康診断「啓発型健診」を行っている。同健診の効果検証事業に協力するもので、17日は行員が内臓脂肪や骨密度、だ液などの8種類の検査を受けた後、専門家から指導を受けた。

同健診は、弘大と国の研究プロジェクト「COI（センター・オブ・イノベーション）」の参画機関が開発。診断結果を当日示

し、データを基に受診者が健康教育を受ける仕組み。通常の健診は数週間後に結果が示されるため受診者への働き掛けが難しかったが、同健診は直ちに健康指導を行うため、意識改善が期待できる。

5月にCOIへ参画した青銀は、匿名化した行員の健診結果のデータ提供などで効果検証事業に協力。青銀での実施は初めてで、3日間で行員166人が



啓発型健診を受ける行員ら

参加する。

17日午前の部には約30人が参加。健診後、検査結果が示されたシートを手に、弘前大学院医学研究科の中路重之特任教授らから生活習慣病や健康づくりについて学んだ。参加した對馬めぐみさん(42)は「すぐに指導を受けることで、自分の健康

を見直す機会になる」と話した。

中路特任教授は「検査結果がすぐに分かり勉強することで、受診者が自分の健康状態を把握し生活習慣の改善へとつながる。それが広がることで県民の短命県返上に結びついていく」と語った。

(下山静香)